(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3192425号
(U3192425)
(45)発行日　平成26年8月14日(2014.8.14)　(24)登録日　平成26年7月23日(2014.7.23)

(51)Int.Cl.　　F I
G02C 11/00 (2006.01)　　G02C 11/00
G02C 7/10 (2006.01)　　G02C 7/10

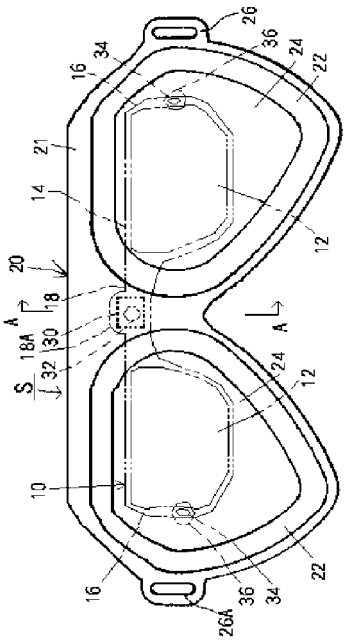
評価書の請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 8 頁）

(21)出願番号　実願2014-2898(U2014-2898)
(22)出願日　平成26年6月3日(2014.6.3)

(73)実用新案権者　512076379
加藤　克治
愛知県知多郡阿久比町字萩大字凸清水２８
(74)代理人　100146813
弁理士　藤井　道雄
(72)考案者　加藤　克治
愛知県知多郡阿久比町字萩大字凸清水２８

(54)【考案の名称】眼鏡保持装置および眼鏡本体

(57)【要約】　（修正有）
【課題】個人に適した度付きなどの眼鏡本体を、ゴーグル等に装着し得る眼鏡保持装置および眼鏡本体を提供する。
【解決手段】眼鏡本体１０に磁石３２などを両面テープで貼付すると共に、ゴーグル２０に保持磁石３０などを両面テープで貼付する。ここで、眼鏡本体１０は、一対のレンズ１２及びこれらの各レンズ１２を支持するフレーム１４を備えており、いわゆる眼鏡の弦が無い形態である。そして、眼鏡本体１０に配置される磁石３２などを、ゴーグル２０に配置される保持磁石３０などに吸着させる。即ち、眼鏡本体１０に配置される磁石３２などを、ゴーグル２０に配置される保持磁石３０などに吸着させ、眼鏡本体１０をゴーグル２０へ装着する。従って、ユーザーは、ゴーグル２０の装着時においても、例えば個人に適した度付きの眼鏡本体１０を保持でき、視力を適正に回復させることができる。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
一対のレンズ及び上記各レンズを支持するフレームよりなる眼鏡本体を、マスク或いは顔面に貼付される磁石入り粘着テープとする被保持体に保持する眼鏡保持装置であって、
上記眼鏡本体に磁石あるいは磁石を吸引する金属を着脱可能に配置させると共に、上記磁石あるいは上記金属に対応する上記被保持体に保持金属あるいは保持磁石を着脱可能に配置させることを特徴とする眼鏡保持装置。
【請求項２】
請求項１に記載の眼鏡保持装置において、上記磁石あるいは上記金属を上記眼鏡本体または上記保持金属に対して移動可能に配置させ或いは上記保持磁石を上記被保持体に対して移動可能に配置させることを特徴とする眼鏡保持装置。
【請求項３】
一対のレンズ及び上記各レンズを支持するフレームを備え、上記フレームの上記各レンズ間におけるブリッジに磁石あるいは磁石を吸引する金属を配置させることを特徴とする眼鏡本体。
【請求項４】
請求項３に記載の眼鏡本体において、上記フレームのリムに磁石あるいは磁石を吸引する金属を配置させることを特徴とする眼鏡本体。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、一対のレンズ及びこれらのレンズを支持するフレームよりなる眼鏡本体を、例えば水中マスク・ゴーグル等のマスク或いは顔面に貼付される磁気テープなどの被保持体に保持し得る眼鏡保持装置および眼鏡本体に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
特許文献１には、メガネ保持アタッチメントにメガネの弦を嵌め込む切込み又は弦を通す穴を形成し、マスクを装着する際にアタッチメントの切込み又は穴に弦を通したメガネをかけて装着する発明が、開示されている。そして、メガネ保持アタッチメントは、マスクの接顔部と弦及び顔面の隙間を埋めて密着させ気密を保持する（要約の「解決手段」欄及び図３乃至図５参照）。
【０００３】
また、特許文献２は、メガネや水泳用ゴーグルに簡単に装着できるプラスチック製の簡易サングラスに関するものである（段落番号「０００１」参照）。具体的には、例えばメガネの中央ブリッジ及び左右テンプルにそれぞれ対応するようにフックを半透光性プラスチック板からなる本体（簡易サングラス）に設ける簡易サングラスが開示されている。
【０００４】
そして、フックを水泳用ゴーグルの中央連結部及び左右ゴムバンドへ引っ掛けることにより、左右両端が後方へ湾曲した状態でメガネ及び水泳用ゴーグルに装着するものである（要約「解決手段」欄及び図２乃至図４参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特開２００７－４４４６５号公報
【特許文献２】実用新案登録第３０２１０８８号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００６】
ところで、特許文献１では、メガネ保持アタッチメントの切込みにメガネの弦を装着する構成となっているので、メガネの形状（例えば大きさ等）が異なるため、弦に負荷が加

わり変形などする可能性がある。即ち、特許文献１のメガネ保持アタッチメントは、その装着において、各種のメガネに対応するような構成とは言えない。

【０００７】

特許文献２の簡易サングラスでは、水泳用ゴーグルにも装着し得る、フックを例えばメガネの中央ブリッジ及び左右テンプルにそれぞれ対応するように設けているが、上記フックでは装着できない呼吸器用マスクまたは水中マスク（特許文献１の図４及び図５参照）が存在する。

【０００８】

即ち、特許文献１及び特許文献２では、メガネの弦（「テンプル」と同義）を装着時の必須要素としているが、その弦の存在が上述したような不都合（過度の負荷や装着不可能など）が生じる場合もある。また、特許文献１及び特許文献２では、眼鏡をゴーグルまたはマスクに対し、例えば上下方向への位置調整が出来ないなどの不都合も生じる。

【０００９】

本考案の目的は、例えば個人に適した度付きなどの眼鏡本体を水中マスクまたはゴーグルなどの被保持体に装着し得る眼鏡保持装置および眼鏡本体を提供する。

【課題を解決するための手段】

【００１０】

本考案の眼鏡保持装置は、一対のレンズ及び上記各レンズを支持するフレームよりなる眼鏡本体を、マスク或いは顔面に貼付される磁気テープとする被保持体に保持する眼鏡保持装置であって、上記眼鏡本体に磁石あるいは磁石を吸引する金属を着脱可能に配置させると共に、上記磁石あるいは上記金属に対応する上記被保持体に保持金属あるいは保持磁石を着脱可能に配置させることを特徴とする。また、上述した眼鏡保持装置において、上記磁石あるいは上記金属を上記眼鏡本体または上記保持金属に対して移動可能に配置させ或いは上記保持磁石を上記被保持体に対して移動可能に配置させるようにしても良い。

【００１１】

本考案の眼鏡本体は、一対のレンズ及び上記各レンズを支持するフレームを備え、上記フレームの上記各レンズ間におけるブリッジに磁石あるいは磁石を吸引する金属を配置させることを特徴とする。また、上述した眼鏡本体において、上記フレームのリムに磁石あるいは磁石を吸引する金属を配置させるようにしても良い。ここで、眼鏡本体は、一対のレンズ及びこれらのレンズを支持するフレームよりなり、いわゆる眼鏡の弦（「テンプル」と同義）が無い形態である。また、磁石などの組合せは、磁石の磁気によって眼鏡本体を被保持体に保持するものであるので、少なくとも一方は磁石とする。

【考案の効果】

【００１２】

本考案によれば、眼鏡本体に配置される磁石などを、被保持体に配置される保持磁石などに吸着させ、眼鏡本体を被保持体へ装着する。即ち、本考案によれば、ユーザーは被保持体たとえばゴーグル等の装着時においても、例えば個人に適した度付きの眼鏡本体を保持でき、視力を適正に回復させることができる。また、本考案によれば、眼鏡本体をゴーグル等に対して例えば上下または左右など移動させたい時は、磁石などの位置調整をすることにより、任意に配置変換し得る。即ち、本考案によれば、眼鏡本体をゴーグル等に対して上下方向などへの位置調整がし得る。

【図面の簡単な説明】

【００１３】

【図１】第１実施例に係る眼鏡保持装置を示す正面図である。

【図２】図１のＡ－Ａ線の断面図である。

【図３】第１実施例の変形例Ａの断面図である。

【図４】第１実施例の変形例Ｂの断面図である。

【図５】第１実施例の変形例Ｃの断面図である。

【図６】第２実施例に係る眼鏡保持装置を示す正面図である。

【図７】図６のＢ－Ｂ線の断面図である。

【考案を実施するための形態】
【００１４】
以下、本考案を実施するための形態について、具体化した第１実施例および第２実施例を説明する。
【実施例１】
【００１５】
以下、図１及び図２に基づいて、本考案の一実施例である眼鏡保持装置Ｓについて説明する。ここで、眼鏡保持装置Ｓの被保持体を市販されているゴーグル２０とする例である。
【００１６】
（ゴーグルに関する構成）
ゴーグル２０はゴーグル本体２１（図１の実線参照）及び図示しないベルトを備え、ゴーグル本体２１は一対の枠部２２及び枠部２２にそれぞれ嵌められたフィルム２４を備える。また、枠部２２間には、図２に示すような溝（「隙間」と同義）２３が形成されている。なお、ゴーグル本体２１の両端にはベルト（図示省略）を連結する連結部２６が突設されており、連結部２６にはベルト孔２６Ａが形成されている。
【００１７】
（眼鏡本体に関する構成）
図１の二点鎖線に示すように、眼鏡本体１０は、一対のレンズ１２及びこれらの各レンズ１２を支持するフレーム１４を備えており、いわゆる眼鏡の弦（「テンプル」と同義）が無い形態である。即ち、眼鏡本体１０は、各々個人に適した眼鏡（「レンズ」をも含む）からテンプルを取外した形態あるいは図１に示す被保持体であるゴーグル２０などに対応する形態になるよう特別に発注する特注の個人用眼鏡本体（図１参照）１０であっても良い。
【００１８】
図１の二点鎖線に示すように、フレーム１４は、各レンズ１２をそれぞれ支持する一対のリム１６及びこれらのリム１６を連結するブリッジ１８を備える。また、ブリッジ１８は、市販されている眼鏡よりも広くなるような突部１８Ａが形成されている。更に、本例のリム１６は、レンズ１２の全周に亘って形成されている例であるが、レンズ１２の外周の一部であっても良い。なお、眼鏡本体１０には、鼻に掛ける一対のパットクリングス（図示省略）が配置されている。なお、レンズ１２は、上述したように、各々個人に適した度付きであっても良い。
【００１９】
（磁石に関する吸引構成）
本例は、磁石（「保持磁石」をも含む）の磁気によって眼鏡本体１０をゴーグル２０に保持するものであるので、少なくとも一方は磁石とする。即ち、一方を磁石とし他方を磁石を吸引する鉄などの金属（「保持金属」をも含む）としても良いし、両者を磁石としても良い。本例の吸引構成（「吸着機構」ともいえる）では、図２に示すように第１の保持磁石（以下、単に「磁石」ともいう）３０をゴーグル２０の溝２３に挿入して両面テープ（図示省略）で貼付させる。一方、第２の磁石３２（図１の破線参照）は、ブリッジ１８の略中間に図示しない両面テープで貼付させる。
【００２０】
なお、本考案では、ゴーグル２０側またはブリッジ１８側（即ち、眼鏡本体１０側）の磁石の一方を、磁石３０または３２を吸引する金属（以下、単に「鉄」ともいう）としても良い。ここで、磁石３０及び３２などは、永久磁石としてフェライト磁石でも良いが、希土類永久磁石たとえばNd-Fe-B系永久磁石（ネオジム磁石など）が最適である。また、磁石の大きさなどの形態は任意に変更できる。
【００２１】
眼鏡本体１０の両端を保持するため、図１に示すように、眼鏡本体１０の両端及びそれらに対応するフィルム２４にも吸引構成を配置する。即ち、これらの吸引構成は、図１の

２点鎖線に示すように、第３の磁石３４を眼鏡本体１０端縁のリム１６表面に両面テープ（図示省略）で貼付させ、これらの磁石３４に対向するよう第４の保持磁石（以下、単に「磁石」ともいう）３６は、図３に示すように、フィルム２４裏面（または表面）に図示しない両面テープで貼付させる。その他の構成は、上述した第１及び第２の磁石３０，３２と同様であるので、詳細説明は省略する。

【００２２】

磁石３０は、図示しない両面テープを貼りかえることによって、ゴーグル２０（フィルム２４を含む）に対して内側（図２及び図３参照）または外側（図４及び図５参照）に配置させても良い。また、磁石３２は、例えば眼鏡本体１０におけるブリッジ１８（図１参照）の上部（図３参照）・中部（図２及び図５参照）・下部（図４参照）に対して配置する位置をそれぞれ変更させても良い。即ち、磁石３２は、図示しない両面テープを貼りかえることによって、ゴーグル２０に対して移動可能に配置される（変形例Ａ乃至変形例Ｃ参照）。

【００２３】

（本実施例の作用）

図２に示すように、眼鏡本体１０に磁石３２などを図示しない両面テープで貼付すると共に、ゴーグル２０に保持磁石３０などを両面テープ（図示省略）で貼付する。そして、例えば眼鏡本体１０に配置される磁石３２などを、ゴーグル２０に配置される保持磁石３０などに吸着させる。

【００２４】

即ち、図１の破線に示すように、ブリッジ１８に対向して貼付される磁石３０及び３２同士をそれぞれ対応させ且つ吸着させると共に、各々リム１６の表面外端に対向して貼付される一対の磁石３４及び３６同士もそれぞれ対応させ且つ吸着させる。そのため、眼鏡本体１０はゴーグル２０に装着（「保持」と同義）され、ゴーグル２０はユーザの顔面に装着される。従って、本実施例によれば、ユーザーは、ゴーグル２０装着時においても、例えば個人に適した度付きレンズ１２などが配置される眼鏡本体１０を保持でき、視力を適正に回復などさせることができる。

【００２５】

また、眼鏡本体１０をゴーグル２０に対して例えば上下または左右など移動させたい時は、図２乃至図５に示すように、図示しない両面テープを貼りかえること（即ち、磁石３０などの位置調整）により、任意に配置変換し得る。更に、眼鏡本体１０をゴーグル２０から取外すには、磁石３０及び３２同士ならびに一対の磁石３４及び３６同士の吸引力に抗して、強制的に引き離す。即ち、本実施例によれば、眼鏡本体１０をゴーグル２０から着脱し得るので、例えば曇り止めなどの対策（曇り止めスプレーの塗布など）が可能となる。

【実施例２】

【００２６】

以下、図６及び図７に基づいて、第２実施例について説明する。この第２実施例は、被保持体を顔面（図６の２点鎖線参照）に貼付される磁石入り粘着テープ３７及び４０（図６の１点鎖線および破線参照）とする例である。なお、上述した実施例１の眼鏡保持装置Ｓと実質的に同一部分については同一符号を付して説明を省略又は簡略化し、主として異なる部分について説明する。

【００２７】

（磁石入り粘着テープに関する構成）

磁石入り粘着テープ（以下、単に「磁石テープ」ともいう）３７及び４０は、図６の１点鎖線に示す平面真円状あるいは楕円状の粘着テープ３８・４１及びこの粘着テープ３８・４１の中心に貼付される円板状の磁石３９・４２（図６の破線参照）を備える。なお、図６及び図７に示すように、磁石３９・４２は、粘着テープ３８・４１よりも小径となっている。

【００２８】

そして、磁石テープ３７は、眼鏡本体１０における裏面外端のリム１６にそれぞれ対向するように、粘着テープ３８が顔面に貼付される。また、磁石テープ４０は、眼鏡本体１０のブリッジ１８中心に対向するように、例えば両目間の鼻上（顔面と同義）に貼付される。

【００２９】

一方、眼鏡本体１０のブリッジ１８裏面には、図６及び図７に示すように、その略中心に円板状の保持磁石４４が、図示しない両面テープで貼付される。また、眼鏡本体１０の両端を保持するため、上述した保持テープ４６に対向するように、眼鏡本体１０端縁のリム１６にそれぞれ保持磁石４６が、図示しない両面テープで貼付される。

【００３０】

本実施例では、眼鏡本体１０を顔面（図６の２点鎖線参照）に貼付される磁石テープ３７・４０で保持し得る。この保持状態（図６参照）で、さらに例えば水中マスクなどを装着し得る。その他の作用効果は、第１実施例と同様である。即ち、第１実施例は眼鏡本体１０を外側に位置するゴーグル２０へ保持させる例であり、第２実施例は眼鏡本体１０を内側に位置する磁石テープ３７・４０（「図６に示す顔面」と同義）へ保持させる例である。

【００３１】

第１実施例では被保持体をゴーグル２０とした例であるが、本考案は被保持体を例えば水中マスクなどであっても良い。また、本考案の眼鏡本体１０の形態は、いわゆる眼鏡の弦が無い形態であれば、任意に変更し得る。更に、眼鏡本体１０のレンズ１２は、遠近両方などの度付きでも、度付きサングラスなどいずれでも適用し得る。

【００３２】

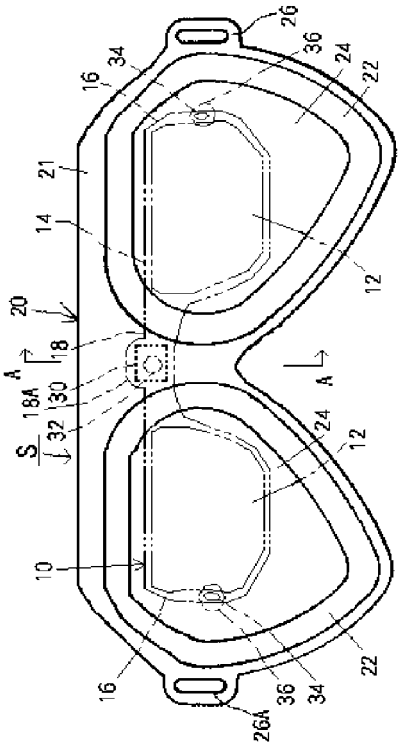
また、第１実施例は磁石３２または３４を眼鏡本体１０に対して図示しない両面テープで着脱可能としている例であるが、本発明は磁石３２または３４（または保持磁石を吸引する金属）を締結手段であるボルトなどで眼鏡本体１０に固定するようにしても良い。更に、本考案のマスクは、例えば呼吸器用マスクまたは水中マスク等をも含む概念である。

【符号の説明】

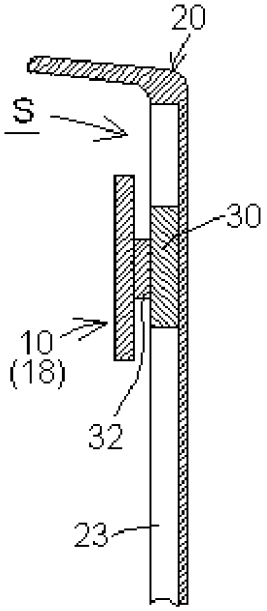
【００３３】

１０…眼鏡本体、１２…レンズ、１４…フレーム、１６…リム、１８…ブリッジ、２０…ゴーグル（被保持体）、３０・３６…保持磁石（または磁石を吸引する保持金属）、３２・３４…磁石（または保持磁石を吸引する金属）、３７・４０…磁石入り粘着テープ、３８・４１…粘着テープ、３９・４２…磁石（または保持磁石を吸引する金属）、４４・４６…保持磁石（または磁石を吸引する保持金属）、Ｓ…眼鏡保持装置

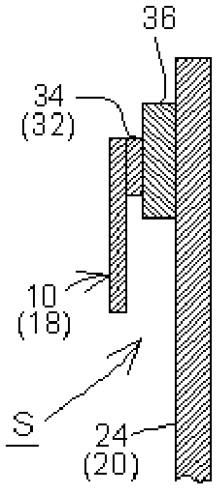
【図１】


26
36
34
16
24
22
21
14
12
20
18
A
18A
30
32
S
A
24
12
10
16
36
34
22
26A

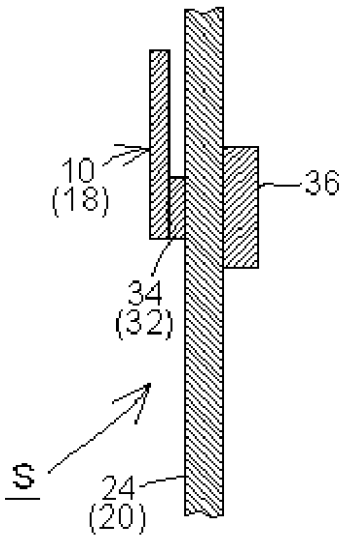
【図２】


20
S
30
10
(18)
32
23

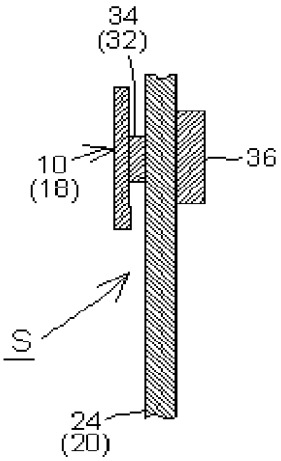
【図３】


36
34
(32)
10
(18)
S
24
(20)

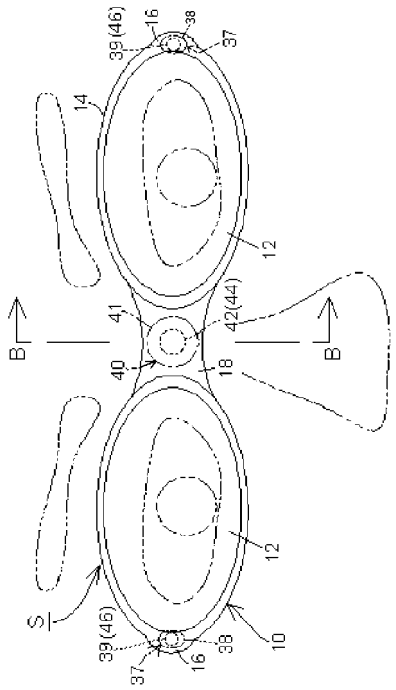
【図４】


10
(18)
36
34
(32)
S
24
(20)

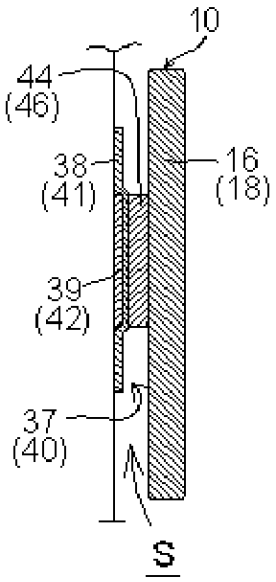
【図５】


34
(32)
10
(18)
36
S
24
(20)

【図６】


39(46)
16
38
37
14
12
B
41
42(44)
40
18
B
12
S
39(46)
37
16
38
10

【図７】


10
44
(46)
38
(41)
16
(18)
39
(42)
37
(40)
S